

月刊

# シルバー 人材センター

高 齢 社 会 を 生 き る

◆インタビュー 人生100年時代の高齢者〈生き方・支え方〉  
作家、宗教学者 島田裕巳

◆特集 話題のセンター訪問



2024

5

労務行政

神栖市SC (茨城県)

# 手芸品作りを互いに楽しむ

手芸同好会のメンバーが、毎月の朝市での販売や、年に1度の市のフェスタへの出展を目指して作品作りを行っている。得意な技術を互いに教え合っていて楽しんでいる。



神栖市SCの手芸同好会では、会員がオリジナル作品を制作し「独自事業（手芸品販売）」を行っている。楽しそうな雰囲気伝わってくる

## 互いに教え合って作る

手芸同好会の活動は、センターの建物内の一室で行われていた。神栖市は茨城県の東南部に位置する。東側は太平洋に接し、鹿島臨海工業地帯が整備されている。公益社団法人神栖市シルバー人材センターの令和4年度の会員数は395人。さまざまな資格・知識を持った会員が、市や民間企業一般家庭から依頼を受けた軽易な仕事を、親切・丁寧に行っている。また現在、センターでは毎月最終月曜日の9～11時に「くまじさ いっぱい」元気朝市（以下、元気朝市）で朝採れ野菜、手芸品、切り花の販売や刃物研ぎを行うほか、「くふれあいカフェ」の池（以下、ふれあいカフェ）では、季節のメニューやコーヒー、ジュース等を提供している。今回は、会員オリジナルの手芸品制作を行う手芸同好会の独自事業（手芸品販売）を取材した。

現在メンバーは12人。部屋に入ると明るく楽しそうな雰囲気が伝わってくる。

代表を務める遠藤日出子さんが、飾ってある作品の中から、かわいい十二支の人形を見せてくれた。

毛糸で編んだかわいい手提げバッグを見せてくれた赤羽富美子さん



「新潟県燕市SCの会員から作り方を教えてもらいました」とほほえむ。そのそばにはクラフトバンド（手芸用紙ひも）で作った手提げバッグが並んでいた。増田栄子さんたちが作ったもので、さまざまな形に工夫されている。

赤羽富美子さんが毛糸で編んだかわいい手提げバッグも人目を引く。目を移すと、綿入れが壁に掛かっていた。安藤くにさんの手作りでもとてもおしゃれだ。安藤さんはすでに次の作品を手掛けており、器用に針に糸を通していった。

部屋の中央にある大きなテーブルでメンバーが制作に励んでいる。赤羽さんが立山和代さんの隣に座り、クラフトバンドの複雑な編み方を教えていた。「花結び」と呼ば

クラフトバンドで作られた各種の手提げバッグを手にする増田栄子さん



手芸同好会代表の遠藤日出子さん。「新潟県燕市SCの会員から習いました」と十二支の人形を見せてくれた



赤羽さん（写真上・左）が立山和代さんにクラフトバンドの編み方、花結びを説明している。写真右は、出来上がった花結び。小さい花がちりばめられたようでかわいらしい





「これからさらに広く編んでいきます」と毛糸のベストを編む原敏子さん



布製のブックカバーを作る立原恵子さん。シックな味わい深い色合い



取材当日参加していた手芸同好会のメンバー。前列左から遠藤日出子さん、内田シゲ子さん、立原恵子さん、後列左から立山和代さん、赤羽富美子さん、大竹定子さん、安藤くにさん、宮崎和子さん、原敏子さん、増田栄子さん



本草履を手製の木の台を使って編んでいく宮崎和子さん。室内履きの草履で暖かいと評判



毛糸のベストを編む大竹定子さん



綿入れの制作に励む安藤くにさん。針に糸を通すのも慣れた手つき



毛糸の編み物が大好きという内田シゲ子さん

です」と話す。  
作品は年に1度開かれる「かみすフェスタ」で展示販売しており、元氣朝市やセンターの事務所でも販売している。

**アイデアあふれる風車と風鈴**

センターの事務所入り口にさまざまな手作り品が展示されていた。作者は加藤時一さん。ペットボトルで作ったという風車があった。「風車はただ風で回るだけでなく、これを地面に挿しておくとその振動が地面に伝わって、モグラが出てきません」と笑う。その効果が評判となつて、かなりの数が売れているという。

いろいろな形をした風鈴も飾つてあった。全て空き缶で作られたもので、音色もきれいだ、これも鳥よけの効果があると評判だそう。庭にたくさん並べてある家もあるという。その他、風見鶏などの作品もある。加藤さんのアイデアは豊富だ。「手先を使うことで

れる編み方で、仕上がりは小さい花がいっぱい並んだようかわいらしい。立山さんは「赤羽さんに教えてもらって挑戦していますが、最後までやり遂げることができるとは分かりません」と笑いながら話す。

そのそばには、淡いピンク色のひもが束ねてある。「ビニールひもを芯にして生地を巻いてあります。これを編んで草履を作ります」と宮崎和子さん。室内履きの草履で暖かくて人気があるという。宮崎さんがこの本草履を編むときは、専用の木製の台を使って編んでいく。この台は友人の家族が手作りしてくれたのだという。

毛糸の編み物が好きなのは大竹定子さんと内田シゲ子さん。立原恵子さんは布製のブックカバーを丁寧につけていた。

遠藤さんは「皆で楽しくやることとが第一。誰が指導するということではなく、お互いにできることを教え合つて、向上していきたい

神栖市SC(茨城県)



センター入り口に飾ってある風車を手にする加藤時一さん(写真左)。畑に挿しておくとその振動でモグラが寄り付かないという。写真上は、空き缶で作った風鈴で、これは鳥よけになるという。加藤さんのアイデアは豊富

「～ふれあいカフェ～ごうの池」は、センターの事務所棟に隣接するワークプラザ内にある。現在、週2日オープンしている。写真右は、カフェを担当する石津一江さんが準備をする様子



「ぼけ防止になります」と話す。

ふれあいカフェ

センターの事務所棟に隣接してワークプラザがある。ここでは週2日、ふれあいカフェが開かれている。取材当日は会員の石津一江さんが1人で準備していた。「今日はランチ10食と弁当20食を用意しています。コロナ禍には休んでいましたが、令和5年6月から再開しました」と笑顔で話す。隣接する市役所の職員や会員が多く利用しており、リピーターも増えているという。

センターの野口仁土事務局長は「元氣朝市については、出店者を増やすため、さまざまな趣味や特技を持った会員を今後も募集していきます。ふれあいカフェについては、現在オープンしている木、金曜日以外の有効利用(総菜、ジャム作りなど)を検討しています」と今後の抱負を語った。

(長野 暁)